

「習慣は才能を超える」

経営学者のドラッカーは、「成果をあげるために必要なのは、才能を持つことではなく、一つひとつのよい習慣をしっかり身に付けることである」と言っています。早起きする、時間を守る、あいさつをする、身だしなみを整える、毎日勉強する…、こうしたことを人に言われてやるのではなく、自分から進んでやる人、習慣として当たり前に行える人は、その次のことに意識やエネルギーをもっていくことができます。生活に向き合う姿勢が変われば、必ず学習や部活動に向き合う姿勢も変わります。

一つひとつのよい習慣が身に付けば人生は大きく変わっていきます。「習慣は才能を超える」「習慣は人生を変える」のです。意識が変われば行動が変わる、行動が変われば習慣が変わる、習慣が変われば人格が変わり、人生が変わります。学校は、これからの人生を生きていくためのよい習慣を身に付けて人生の土台をつくる場所です。ぜひ学校にいる間に、よい生活習慣、よい学習習慣を身に付けてほしいと思います。

「習慣にする」ということは、別の言葉で言うと「続ける力」を持つということです。始めたことを続けるだけですから、特別な能力ではありません。でもずっと続けることができればそれは一つの才能かもしれません。一流の人はみな「続ける力」を持っています。先日、永世7冠を達成し、国民栄誉賞が贈られることになった将棋の羽生善治さんは、「以前、私は才能は一瞬のひらめきだと思っていた。しかし、今は10年20年30年と同じ姿勢で同じ情熱を傾けることが才能だと思っている」と言っています。もともとの能力よりも継続できる情熱を持てる人の方が、長い目で見ると伸びるということなのだと思います。スポーツの世界では、野球のイチロー、サッカーのカズ、ジャンプの葛西などのレジェンドたち、学問の世界では、ノーベル賞を受賞した研究者たちなど、みな「続ける力」を持っています。

よい習慣を身に付け、同じ姿勢同じ情熱で一つのことを続けていけば、きっと大きな成果に到達することができるでしょう。